

こども自然共生活動推進プログラム助成
次世代を担う子どもたちと取り組む、
秋吉台地域の巨樹・名木の保全と育成「街道松の植樹」

- ☆ 日時：平成23年3月9日（水） 9：00～12：00
- ☆ 場所：秋吉台（美祢市秋芳町秋吉）
- ☆ 参加者：24人（こども18人・大人6人）
- ☆ 主催：秋吉台地域の巨樹・名木を守り育てる有志の会（代表：田原 義寛）

1 スケジュール

- 9：00～ 集合
- 9：10～12：00 現地で街道松の植樹活動

2 活動内容

江戸時代の頃からある、秋吉台上の街道に植えられていた良悟松（クロマツ）が、近年、マツクイムシ等の被害に遭い、枯れてしまいました。これを、植樹することにより再生します。

【開会】

今回の活動に参加してくれた本郷小学校5、6年生児童と先生、保護者等で植樹活動をしました。長者が森を過ぎ地獄谷そばを通る街道が、江戸時代、無得良悟禅師が街道沿いに道しるべとして、222本の松を植えた場所で、近年、マツクイムシ等により枯れてしまいました。この街道沿いの1,5kmに、150本の松を植樹します。苗木のうちに山焼きで燃えてしまわないように、山焼きの前にマツ周辺の草刈を行うことや防火シートを巻く等の対策をして育てることを説明しました。



【植樹】

良悟松までの道しるべと良悟松の案内看板とマツの痕跡（山焼き後なので表面が燃えています）





植樹の説明：植樹に「クロマツ、炭、菌根菌入り液（コツブタケ、アマタケ、ヌメリイグチ）」を用いました。まず、穴を掘り、炭（約1リットル）、菌根菌入り液（約1リットル）の順に入れ、1つの穴にマツ3本を植えます。炭は殺菌効果がある。菌根菌入り液はキノコの菌3種類をあわせたもので、菌根とマツは共生関係があります。マツは菌根菌と共生関係を作らなければ生きていけないので、絶対に入れること。平たく言うと、マツが菌根菌にごはんをあげて、菌根菌がマツにおかずをあげるような関係なので、どちらが欠けても生育できない、と説明されました。



あらかじめ団体が、穴を浅く掘っておき目印となっている場所に植樹をします。こどもたちは、説明どおりに穴を掘り、炭、菌根菌液を振り入れ、マツが重ならないように1つの穴に3本ずつ植えていきました。

今回、参加した美祢市立本郷小学校は「ふるさと子どもガイド」という学習に取り組んでいます。「ふるさと子どもガイド」とは、地域の自然等を調べる、現地に行く、講師から学ぶ等の活動の中で学んだことをまとめ、観光客にガイドをするという活動で、今年度は7月にガイドを実施したとのことでした。5年生のこどもが、「来年のガイドでは、良悟松のことも調べてみようか」と話していました。



時折、雪もちらつく寒風の中、植樹をしていきました。



1つの穴に3本植えました



トカゲが土の下に眠っていました



写真手前から強風が吹いていました。こどもたちは、木が寒いからと土を盛り、木に当たる風を防ごうと考えました。防風林でなく防風土!?

こどもたちは、秋吉台の自然について関心も高く、寒さに震えながらも自分のふるさとを大切にしたいという気持ちが感じられ、木の扱いなどは丁寧でした。「昔あった自然が戻るといいな」と、話してくれたこどももいました。

